



# みつわ通信

2018年

11月号

担当 岡崎

そろそろ雪かな・・・。

お世話になっております。蔵王を眺めるとスキー場が白い様子が見受けられました。例年ですと11月中旬頃には里の方も初雪となるのでしょうか？徐々に冬支度を始めなきゃなと考えています。今回はスランプと空気量の規格値、許容差についてお話していきたいと思ひます。



## 1. 規格値と許容差

生コンのスランプと空気量の規格値は、JISA5308レディーミクストコンクリートに由来しており、スランプ8～18cmまでが±2.5cm、5と21が±1.5cm。空気量は4.5%±1.5%が規格値と許容差となっております。

## 2. 規格値

生コンの柔らかさ・状態等を表す値「スランプ」には、8・10・12・15・18・21cm(40mm、舗装コン除く)があり、日本国内においてはこの6つの数値で表され、使用されています。また、当社でも取り組み中の高流動コンクリートの場合は「フロー(広がり)」という値が適用され、50・60cmという規格があります。

空気量は軽量コンクリートの5.0%を除いては、4.5%と規定されています。コンクリートが凍結し解ける時、氷の膨張融解によるヒビや剥離に抵抗(凍結融解抵抗性)出来る生コン中の空気量の値が3%とされており、3%を維持し変動に対応できる数値として4.5%という数値になっています。

## 3. 許容差

許容差とは文字通り「許される差」のことです。スランプ15cmの普通生コンが現場着で試験し、許される差は12.5cm～17.5cm、空気量は3%～6%となり、範囲に入っている生コンクリートは品質上問題がない(JISA5308の規定上)ということになります。

土間コンクリート打設の時よく耳にするのが、スランプ18に対して試験値が17cmで合格し現場打設が始まると、職人さんより「硬いから柔らかくしてー」等の声が出る時があります。範囲内であっても作業性の面からは使いづらいということ。また試験値が20cmの場合は職人さん達は軽い力で均し作業ができますから「いい生コン」となりますが、監督さん・私達試験員は「水分が多いから強度試験大丈夫なのかな？」という強度の心配が生まれます。

許容差は材料の変動(骨材の水分量変動)や計量誤差等に対応した許容される範囲です。生コン工場も品質の安定を目指してはいますが、天然の骨材を使用している以上、範囲内の変動は避けられません。現場と工場の規格と許容差の認識を合わせていくことが、品質の良いコンクリート構造物を作る上で必要だと考えます。

## ☆不明な点はお気軽にお電話ください☆

コンクリートに関することなら小さなことでも構いません。

Tel 023-686-6032 まで、お電話待ってます。

Facebookやっています!! (・∀・)イネ!! お願いします!!

ホームページも毎日ブログ更新中!! 色んな情報がいっぱい!!

<https://www.facebook.com/mitsuwanamakon/>

<http://necon.co.jp/>

